



介護保険情報

火曜日・金曜日送信
(祝日を除く)

株式会社医療タイムス社

取材などの依頼は編集企画部まで

☎026-217-8770

FAX 026-235-6089

✉nagano@times-net.net

この情報は契約会員のみ提供するものです。従って複製等により第三者へ流すことはご遠慮ください。

離床センサーや介護用洗身用具展示 しんきんビジネスフェア

長野信用金庫（市川公一理事長）は15日、長野市のビッグハットで第21回長野しんきんビジネスフェア2024を開いた。県内外の企業や団体、学校など300社・団体が出展し、介護、福祉関連では、車いすの離床センサーや介護用洗身用具などのブースが並んだ。



全国500の病院、介護施設が使用する車いす、ベッド用の離床センサーを製造販売する長野テクトロン（長野市）は信大医学部、工学部と研究開発中の車いす用離床センサーを展示。AIサーバーが利用者の車いすの使い方の癖を集計・解析し、ずり落ちそうな危険時のみ職員のスマートフォンの専用アプリに通知する仕組み。また、ともに研究開発中のベッド用離床センサーでは呼吸検知ができ、呼吸が止まった際に専用アプリに通知が届く。柳澤由英社長は「今後、既存の離床センサーを使用している施設で実証実験し、実用化したい」と見据えた。

シリウス（東京都）は入浴ができない要介護者や入浴を嫌がる認知症の人向けの介護用洗身用具「switle BODY（スイトルボディ）」を展示。ベッドに寝かせたまま液だれしない湿式吸引アタッチメントと専用ソープでベッドを濡らさず頭を含め全身を洗うことができる。また、水温を38～42℃に調整可能で約1リットルの水で洗身、すすぎができ節水にもつながる。複数の介護施設で導入され、同社の担当者は「入浴を嫌がる認知症の人にも遊び感覚で柔軟に受け入れてもらえている。入浴と清拭の中間の第3の洗身用具として、来年の介護保険適用を目指す」と話した。

【次ページへ続く】

災害、感染対策医療用具を製造販売するエアーストレッチャー(長野市)はワンタッチメッシュベッドを展示。災害や急病時の緊急搬送時に寝たまま運べ、処置スペースとしても活用できる。平常時は折り畳みで収納場所を取らないため災害対策用備蓄ベッドとしての展開を目指している。

このほか、タカ商(同市)は県内の複数の介護施設が導入している加熱調理した食品を短時間に急速冷却してチルド保存した「クックチル食」を、ロゴス(同市)はPepperに介護向けのアプリケーションを搭載した「Pepper for Care」を展示、紹介した。

同フェアには約5000人が来場した。

介護給付費支払額前年比4.4億円増の155.2億円

3月分国保連まとめ

県国民健康保険団体連合会がこのほどまとめた3月審査の介護給付費等支払確定状況によると、件数は27万4862件で支払確定額が155億2200万7401円だったことが分かった。前年同月に比べ、件数で3716件、支払確定額で4億4083万7785円それぞれ増えた。

サービス種別にみると、居宅(介護予防)サービスは20万8585件、65億2906万5930円、地域密着型(介護予防)サービスは2万673件、30億7817万8708円、施設サービスは1万9756件、54億8032万2454円、介護予防・日常生活支援総合事業は2万5848件、4億3444万309円だった。

前年同月に比べると、居宅(介護予防)サービスは件数で3352件、支払確定額で1億6304万3279円それぞれ増えた。地域密着型(介護予防)サービスは件数で18件減り、支払確定額で1億1217万9778円増えた。施設サービスは件数で218件減り、支払確定額で1億4803万9514円増えた。介護予防・日常生活支援総合事業は件数で600件、支払確定額で1757万5214円それぞれ増えた。

稲葉と箱清水に訪問看護 長野市1日付

長野市は1日付で、次の事業者を介護保険サービス事業者に新規指定した。新規指定は次の通り。

【訪問看護】

△訪問看護ステーションフィオーレ(稲葉、フィオーレ福祉会)、通常の事業実施は長野市(稲葉)、看護員数は3人

【次ページへ続く】

【訪問看護・介護予防訪問看護】

△訪問看護ステーションぬくもりの里(箱清水、メディオアシス)、通常の事業実施地域は長野市(大岡、豊野、鬼無里、戸隠、信州新町、中条地区を除く)、看護員数は3人

6月に総会と交流会 日本ALS協県支部

日本ALS協会県支部は6月8日、麻績村地域交流センターとオンライン(Zoom)のハイブリッド形式で総会と交流会を開く。総会では、訪問看護ステーションあゆみの太田貴文氏が「地域におけるコミュニケーション方法の選択」、JA長野厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院の中川真人氏が「作業療法士の視点と相談窓口」と題してそれぞれ講演する。あわせてコミュニケーション機器の展示紹介も行う。

後半は患者や家族、支援者の交流会を企画している。総会は午後0時30分から、交流会は午後2時45分から。

参加費は会員とオンライン参加は無料、非会員の会場参加は100円。定員は会場60人。

希望者は1日までに県支部ホームページから申込書をダウンロードしてFAXまたはメールで申し込む。

問い合わせと申し込みは県支部事務局の原山さん(Tel 026-263-6335、Fax 026-243-8820、メール akane_harayama@tetote7107.org)へ。

7月に佐久で介護日本語能力テスト

2号、3号の技能実習移行時に活用

外国人日本語能力検定機構(JLCT)が主催、海外介護士育成協議会(甘利庸子代表)が実施団体の「JLCT介護日本語能力テスト」は7月14日午前9時20分から、佐久平交流センターで開く。同テストは日本語能力試験の対象試験として認められており、合格することで介護技能実習生の2号、3号技能実習移行時のN3要件を満たす。

テストはリスニング(40分)、文字と語彙(30分)、会話と表現&リーディング(70分)が試験科目。

受験料は8800円。希望者のいる法人は6月9日までにJLCTの特設サイト(<https://jlct.jp/kaigo-public-test/>)から法人登録して申し込む。

問い合わせは同協議会(Tel 0267-22-9274、メール nozomi-jlct@nozomi-g.co.jp)へ。